



小中一貫防災プラン 「つくば吾妻学園」

長屋 和宏

つくば市立吾妻学園おやじの会



プランの目的・ポイント

1. 小中一貫教育と連携した防災の取り組みにより、小学校から中学校にかけて切れ目なく防災意識を維持する。
2. オヤジをはじめとする保護者および学校が軸となり、地域に防災意識を浸透させる。
3. 生徒・児童が各家庭に防災のキーワードを持ち帰ることにより、家族で防災を意識するとともに各家庭で防災に取り組む。



各実施プログラム

- | | |
|---------------|--------------------|
| 5月17日(水) | 筑波山地域ジオパーク連携セミナー |
| 6月10日(土) | 竜巻等を想定した避難訓練 |
| 6月10日(土) | 第1回炊き出し訓練「焼きそば」 |
| 7月8日(土) | 親子防災授業 |
| 8月5日(土)～6日(日) | 学校防災キャンプ |
| 9月9日(土) | 体育祭防災レクレーション |
| 1月7日(日) | 災害・防災に関する漢字の秘密 |
| 1月14日(日) | 避難所を自分たちでプロデュースしよう |
| 2月3日(土) | 第2回防災炊き出し訓練「餅つき」 |
| 全体の成果とりまとめ | 「吾妻学園防災手帳」 |



各実施プログラム

- | | |
|---------------|--------------------|
| 5月17日(水) | 筑波山地域ジオパーク連携セミナー |
| 6月10日(土) | 竜巻等を想定した避難訓練 |
| 6月10日(土) | 第1回炊き出し訓練「焼きそば」 |
| 7月8日(土) | 親子防災授業 |
| 8月5日(土)～6日(日) | 学校防災キャンプ |
| 9月9日(土) | 体育祭防災レクレーション |
| 1月7日(日) | 災害・防災に関する漢字の秘密 |
| 1月14日(日) | 避難所を自分たちでプロデュースしよう |
| 2月3日(土) | 第2回防災炊き出し訓練「餅つき」 |
| 全体の成果とりまとめ | 「吾妻学園防災手帳」 |

当初予定には無かったが、新たな連携により、プログラムを実施。

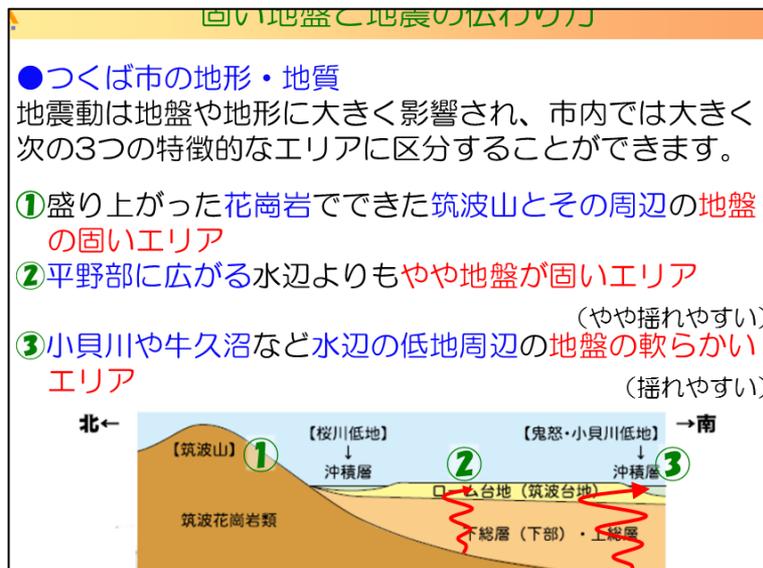
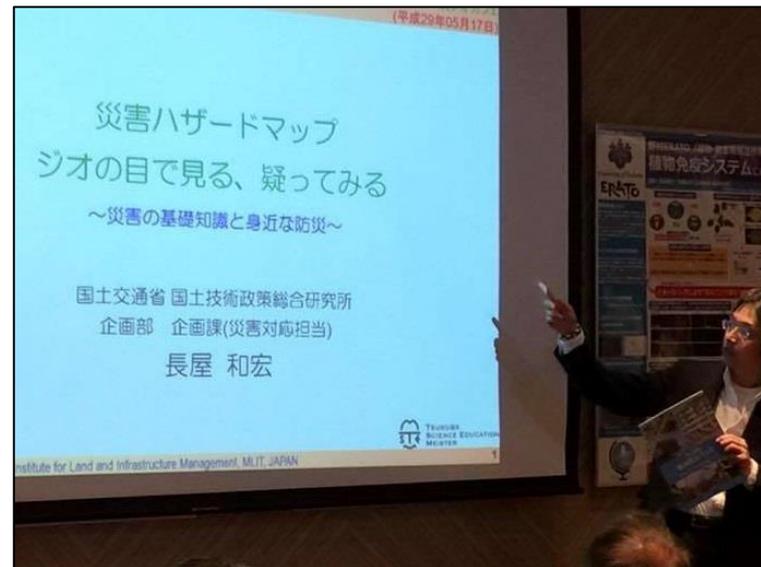


各実施プログラム

- | | |
|---------------|--------------------|
| 5月17日(水) | 筑波山地域ジオパーク連携セミナー |
| 6月10日(土) | 竜巻等を想定した避難訓練 |
| 6月10日(土) | 第1回炊き出し訓練「焼きそば」 |
| 7月8日(土) | 親子防災授業 |
| 8月5日(土)～6日(日) | 学校防災キャンプ |
| 9月9日(土) | 体育祭防災レクレーション |
| 1月7日(日) | 災害・防災に関する漢字の秘密 |
| 1月14日(日) | 避難所を自分たちでプロデュースしよう |
| 2月3日(土) | 第2回防災炊き出し訓練「餅つき」 |
| 全体の成果とりまとめ | 「吾妻学園防災手帳」 |

当初予定には無かったが、新たな連携により、プログラムを実施。

●つくば市と協力
筑波山の地形・地質と地震の伝わり
桜川の流域治水、などを調査、学習
今後、子ども達への伝承に展開





学習を通じて災害・防災について学ぶ。

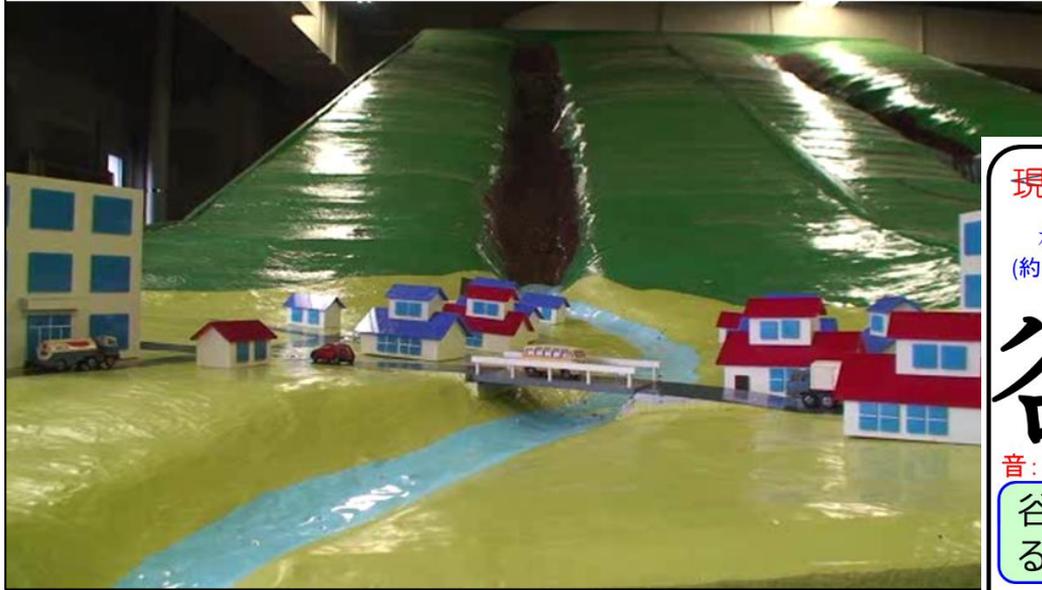
防災教育は、我々が自然災害と共に暮らしてきた経験や教訓をもとに、暮らしを守るために先人が遺した知恵や工夫、営みの集積である「災害文化」として成り立っています。また、漢字学習も、漢字が生まれた自然・社会・文化に基づき、3,500年もの間、意味合いをほとんど変えることなく使用されてきた成り立ちと体系に基づいています。

漢字の成り立ちを、その文字の元となった形や動きなどのエピソードを交えて学ぶことで、漢字のみならずテーマ(災害・防災)についても関心を持って、記憶に留まる形で学習が出来た。



災害・防災に関する漢字の秘密

土石流



現在の文字

楷書
(約1700年前)

谷

音: コク、訓: たに

隸書
(約2000年前)

谷

篆書
(約2500年前)

𡵓

金文
(約3000年前)

𡵓

昔の文字

甲骨
(約3300年前)

𡵓

これは何?

谷の入り口の形。上の八が重なりは、山や石・岩が重なるようにせまっている様子。下は谷の入り口を示す。

土や石が
落ちる様子

水が落ちる場所
人が住む場所



𡵓

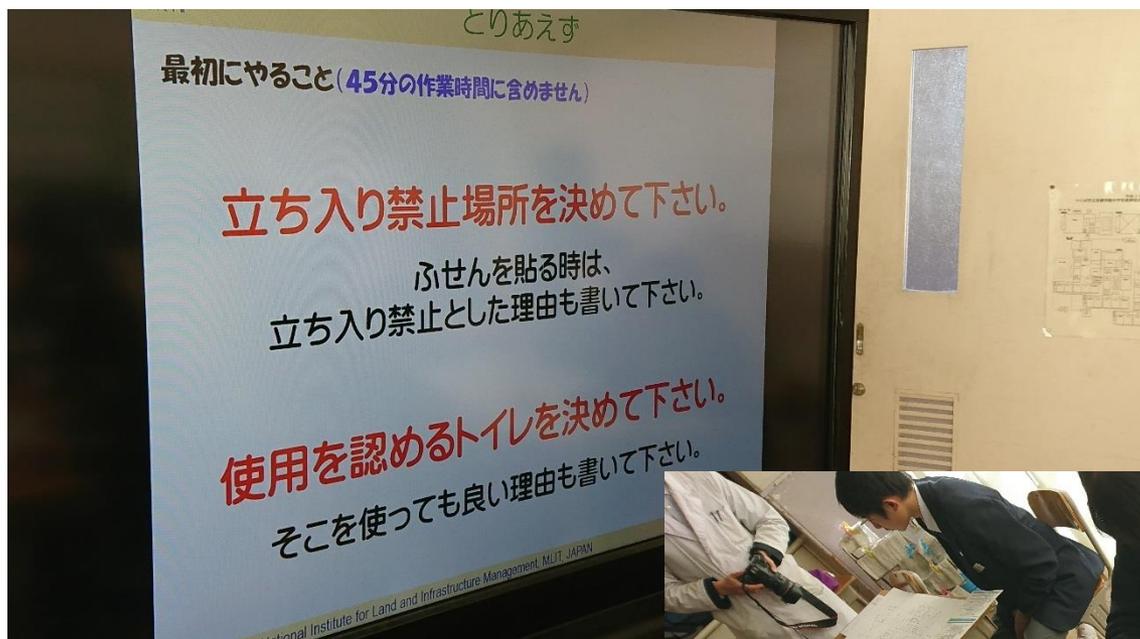


中学生が自ら自分達の学校が避難所になることを想定する

- 避難所と避難場所の違い、災害時の避難所の様子について学習し、避難所で避難者がやるべきことを生徒らが検討・整理
- 自分たちの学校が避難所になった想定で、校舎の各部屋をどのように使うかをグループワーク
- 災害時に発生するさまざまなミッションに対して、生徒たちで解決方法を議論する
- **他の学校などでも実施できるプログラムへの標準化**
→ **市内の中学校などに展開**

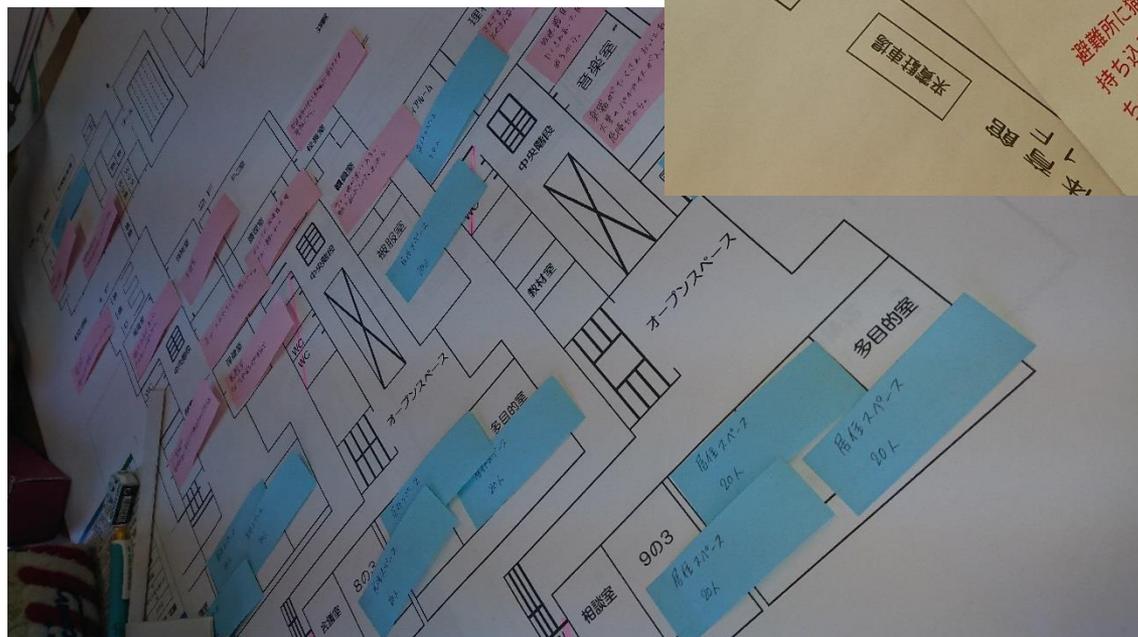
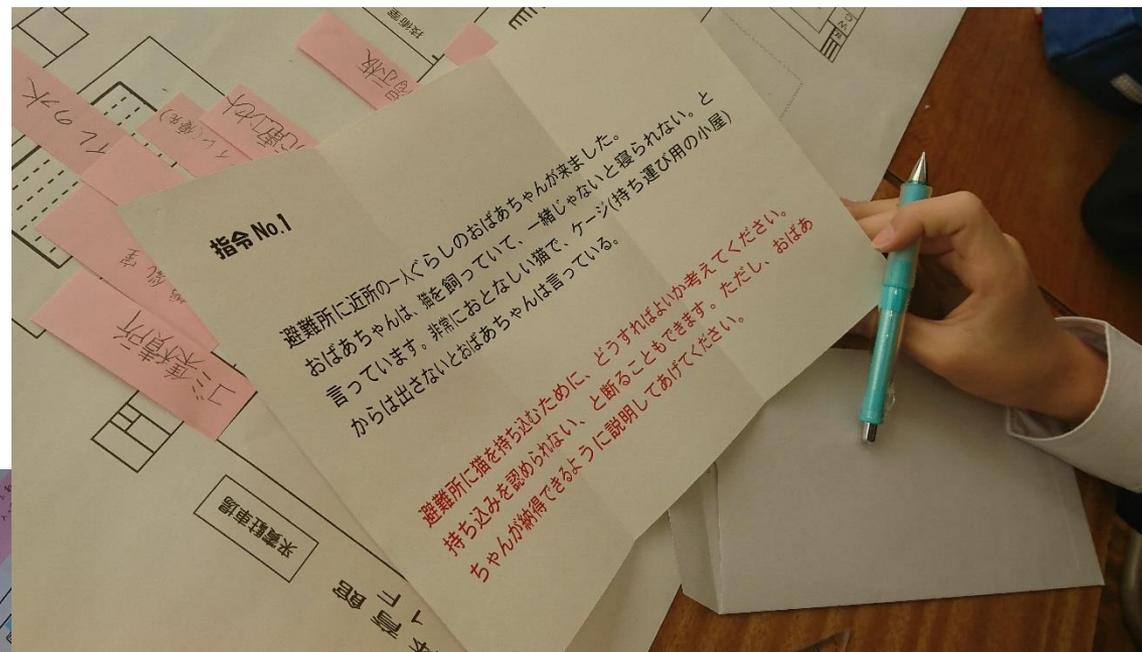


避難所を自分たちでプロデュースしよう





避難所を自分たちでプロデュースしよう





成果として得られたもの

- 10年後も続く継続プログラムの構築を目指して活動し、オヤジをはじめとする保護者の協力が得られるとともに防災を意識した取り組みの実践ができた。
- 学区内のみならず、他のボランティア等の活動にも着目し、防災教育のアプローチに新たな展開の可能性ができた。その成果として、ジオパークとの連携、漢字学習と防災教育とのコラボレーションなどが実現した。
- 吾妻学園防災手帳は、これまでの経験を活かし、より実践的な資料としてとりまとめることができた。
- 他の地域、学校に展開出来る防災学習コンテンツが作られた。